

## 『日本人として国際理解』（ブラジルと日本のつながり）

学校所在府県：和歌山県	指導時数：4時間（第3学年）・ 1時間（第1学年）
学校名：かつらぎ町立笠田中学校	対象学年：中学1年生・中学3年生
名前：木村 哲彦（英語）	対象人数：
実践教科：英語・総合的な学習の時間・ 社会	中学校3年生 55人（2クラス） 中学校1年生 58人（2クラス）

### 1. 教師海外研修を通して感じたこと

教師としての海外研修だけではなく、一人の日本人として貴重な経験をさせていただいた。特に日本で感じられない「日本人」とは何かについてブラジルで常に考えた。それだけブラジルという国が日本と深い関係があり、つながりがあった。

ブラジルでの研修を通じて、JICAの技術協力や草の根レベルの援助、またあらゆるところで資金援助や自助援助をしている現場を実際に見ることができた。その範囲は幅広く、INPE・地球規模の問題である森林伐採を衛星で監視し、オンダリンパ計画・インフラ事業における下水道整備、アマゾン水銀汚染モニタリングプロジェクト、アグロフォレストリー農法・CAMTA加工工場など、環境面だけでなく経済面でも大きく日本が関わり支援していることを知った。また、日系社会ボランティアやPIPAなど人的な協力も実際に見ることができ、人と人との交流の中で国際貢献していること学んだ。日本にいと知らないことばかり、日本から遠いこのブラジルがいかに日本と繋がりのある国なのか、改めて思い知らされることばかりであった。日本のラジオ体操や地域社会との交流で治安を維持する警察の交番制度、ブラジル学校の中で情操教育や日本式のしつけの重要性、日本のサブカルチャー人気から日系人だけでなく非日系人の日本語学習熱、さまざまな分野で日本式導入によりうまく機能していることなど、これほど日本と深く関係ある国は世界中どこを探してもない。それだけブラジルの中にある日本を感じられる研修であった。

### 2. カリキュラム

#### (1) 実践の目的・背景

本校生徒たちは、特に田舎の居心地のよい地域で暮らし、進学後、地元に戻ってくる生徒も多い。その地域で今、学んでいる彼らはもっと海外に目を向け、考えていくことが大切だという思いで今回の授業を計画していった。

ブラジルから帰国後、ブラジルはどうだったかという問いに、即答できない自分がいた。なぜなら、私自身の中であまりにも多くの刺激と情報量を得て、すぐに整理することができなかつたからである。すなわち、あまりにも多様なブラジルを肌で感じることもできたので、どういった切口で生徒たちに多様なブラジルを伝え、考えさせることができるか、大変悩んだ。私自身、十数年前にブラジルの日系社会で暮らしたこともあったので、一般的なブラジルという国についての紹介だけではなく、私自身が今まで経験したことや現場で見えて感じたことなどを通じて、さまざまな問題を生徒たちに考えさせたいと思った。そして、生徒たちが自国の文化とブラジル文化を比較し、国際協力について理解し、グローバルな視野を持って生き抜く力を得られるきっかけになればと考えた。

また、日本とブラジル、さらには和歌山とブラジルのつながりを伝えることが私の使命だと強く感じて取り組んだ。

## (2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>1 時限目</b> ブラジルを知る * ブラジルについて基礎知識を学ぶ。興味・関心を持たせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ブラジルについてのイメージを自由に出し合うブレインストーミングを行う。</li> <li>● 国旗や地理的なことについてクイズ形式で行う。</li> <li>● フォトランゲージでブラジル社会の特徴を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ブラジル国旗</li> <li>● ブラジル地図</li> <li>● 写真 (パワーポイント)</li> </ul>
<b>2 時限目</b> ブラジルの農業を知る * 農業大国であることと日系移民・日本との関わりについて学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 訪問地の写真等のスライドを見せながら説明する。</li> <li>● サトウキビ・パイナップル・コーヒー農場の写真</li> <li>● モノランゲージを行い、現地から持ち帰ったモノを見せながら、現地の様子などを説明する。</li> <li>● セラード開発やアグロフォレストリー農法など日系人・日本の社会貢献を知る。</li> <li>● 日本とブラジルとの関係を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 写真 (パワーポイント)</li> <li>● ブラジルのモノ (コーヒー豆・カカオの実・胡椒・ナッツなど) アサイジューズ・チョコレート</li> </ul>
<b>3 時限目</b> 移民とブラジル日系人の暮らしを知る * 和歌山県の移民事情とブラジル日系社会・日系人について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本の移住・移民について理解する。</li> <li>● 和歌山県からの移民・移住について理解する。</li> <li>● DVDの動画を見ながら、移民の歴史と当時から今日までの日系人の暮らしを知る。</li> <li>● 国際交流を進めていく上で重要なことを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 写真 (パワーポイント)</li> <li>● JICA主催「連れもて行こら紀州から！一世界にひろがる和歌山移民」展示資料写真</li> <li>● DVD「和歌山とブラジル 未来へのかけはし～移民の歴史と今、そしてこれから～2014年」</li> </ul>
<b>4 時限目</b> 日本の国際協力を知る * 国際協力・JICAの活動について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● JICAの活動を知り、興味関心を持つ。</li> <li>● 研修での訪問先の写真を使い、ブラジル社会の課題や日本の協力の現状を知る。</li> <li>● 一人一人がこれからのグローバル社会でどうしたらいいのか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● JICAの冊子</li> <li>● 教材プリント</li> </ul>

## 3. 授業の詳細

### 1 時限目：ブラジルを知る

ねらい…ブラジルについて基礎知識を学ぶ  
興味・関心を持たせる。

#### ◆内容◆

- ① ブラジルに関するイメージを自由に出し合う。
- ② ブラジルの国旗・地理的概要を示し、クイズ形式で考える。
- ③ フォトランゲージによる、数枚の写真を題材にしてグループで話し合い、深く考えながら、いろいろな気づきや発見につなげる。  
(東洋人街の風景・ラジオ体操のモニュメントと鳥居マークの信号)  
多民族国家と日系人の存在を確認する。



サンパウロ市内

## 生徒の反応

- ▶ まさか、ブラジルで日本のラジオ体操をしているとは思っていませんでした。ブラジルの国の大きさや多様性に驚いた。

## ！ココがポイント

ブラジルの人口や日系人の割合・多民族国家であること、またサンパウロやマナウス・ベレンの大都市を東京や和歌山県の人口と比較しながら、ブラジルの大きさ・多様性に気づかせる。



東洋人街の信号とラジオ体操を行っている広場

## 生徒の感想

- ▶ ブラジルの地理や国旗に関する意味などいろいろよくわかり、日本との違いもわかった。
- ▶ 様々な人種の人々が暮らしていて、東洋人街があることに興味を持った。
- ▶ ブラジルは多民族社会であることやなぜこんなに日本文化が根付いているのかと思った。
- ▶ 日系人が和歌山県の人口よりも多いことに驚いた。
- ▶ ブラジルは日本の反対側でとても違うイメージだったが、写真を見ると結構日本と共通するところがたくさんあり驚いた。
- ▶ TVなどでいつも見かけるブラジルはアマゾン川流域の自然を探検していて、少し危険なイメージが多かったけど、ビル群や東洋人街があることを知って、とても親しみやすくなった。



◆所感◆ 生徒たちが持っているブラジルに対するイメージを変えたかった。多民族国家であり、ブラジルの大きさについて少しは感じられたようだ。フォトランゲージにおいては予想以上に、生徒たちがグループで話し合い、主体的に取り組めた。

## 2時限目：ブラジルの農業を知る

ねらい…農業大国であることと日系移民・日本との関わりについて学ぶ。

### ◆内容◆

- ① フォトランゲージとモノランゲージ  
サトウキビの収穫時の写真を見せて、何をしている写真なのか考える。  
収穫量の表からブラジルが世界一であることを理解する。
- ② サトウキビから砂糖・アルコール（バイオエタノール）・味の素の原料などを作り出していることに気づく。
- ③ モノランゲージを用いて、現地から持ち帰ったモノを見て、現地の様子などを知る。
- ④ センターピポット式スプリンクラーの写真を見て、何を作り出しているのかをグループで考える。  
セラード開発により大豆やコーヒー豆など作り出していることに気づく。



カカオと胡椒

- ⑤ JICA 支援のセラード開発やアグロフォレストリー農法など日系人・日本の社会貢献を理解する。
- ⑥ トメアスの胡椒・カカオ・明治のチョコレート・アサイドリンクを見て、日本人とのつながりに気づく。
- ⑦ ブラジルは世界最大の農業大国であることを理解する。

### ！ココがポイント

トメアスの小長野さんや和歌山出身の坂口さんがアグロフォレストリー農法で環境に配慮しながら農産物を作っていること、それを地域全体に広げてブラジル社会に貢献しているところ



CAMTA 工場で加工されて  
日本に運ばれる

### 生徒の反応

- ▶ コーヒーの実や元々赤いことや胡椒の実やカカオ豆の実物を見られて、興味津々。



授業で見せたもの

### 生徒の感想

- ▶ ブラジルの農業と日本との深い関わりがあること、世界の食料庫であることなど、ブラジルについてほとんど知らないことばかりで、ブラジルという国の特色について深く知ることができた。
- ▶ 日系人がブラジルの農業を支え、発展させたことはすごく誇らしい。
- ▶ 日系人がブラジル人を思いやりみんなのために一生懸命働いていることがわかった。
- ▶ 私たちの町の特産品でもある「柿」も日系人がもたらしたもので、ポルトガル語でも「Kaki」ということもわかった。
- ▶ 社会で習ったアグロフォレストリー農法で作られたカカオの実やアサイなどが日本でチョコレートやアサイドリンクなどとして食べられていることがわかった。

◆所感◆ 実際に商品になったジュースやチョコレート・コーヒーなどを紹介したことで、生徒たちは身近なものがブラジルと深く関わっているものであると実感できた。

## 3時限目：移民とブラジル日系人の暮らしを知る

ねらい…和歌山県の移民事情とブラジル日系社会・日系人について学ぶ

### ◆内容◆

- ① 当時の時代背景を考える。
- ② 日系人とは何か考える。
- ③ 移民の歴史や移住地の場所を地図で確認する。
- ④ 和歌山県からの移民・移住について知る。
- ⑤ DVD の動画を見ながら、移民の歴史と当時から今日までの日系人の暮らしを知る。

### ！ココがポイント

和歌山県出身の日系人のインタビューを通して、もし自分だったらと考えさせる。



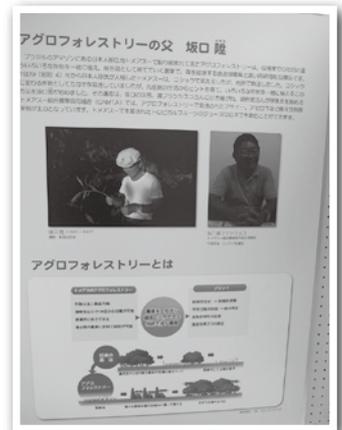
和歌山移民展の資料

## 生徒の反応

- ▶ 「ジャポネース・ガランチード」（日本人は信頼できる！）私もブラジルに住みたい。

## 生徒の感想

- ▶ 和歌山県出身のブラジル移住者の数が 1400 家族で全国第 6 位ということに驚いた。
- ▶ 日本とブラジルは遠い国と思っていたけど、心の距離は近かった。なぜ和歌山からブラジルに行ったのかよくわかった。
- ▶ 日本人がブラジルの農業を支え、発展させたことはすごく誇らしいと思う。日本の文化や食べ物などがブラジルに伝えられていることがとてもうれしい。15 歳で家族や友人と別れ、ブラジルに連れて行かれるのは私だったら嫌です。
- ▶ 苦しい生活の中でも、日本人の心を忘れず、ブラジル人にも信頼されてきたことはすごいことだと思う。
- ▶ もっと交流を深めて、ブラジルと仲良くなれたらいいなと思う。
- ▶ 日本人がブラジルの農業の発展、食文化を変えたのはすごいと思う。ブラジルと和歌山の関係がとても深く、日本人のことを「信用できる」と言ってくれるのはうれしかった。
- ▶ ブラジルと和歌山にこんな深い関係があるとは思わなかった。



◆所感◆ 和歌山県出身者の松原移住地やアリアンサ・トメアス移住地などを紹介する中で、運動会や盆踊り・発表会など日本より日本的な日系社会に驚いていた。またブラジルと和歌山とのつながりをととても感じる事ができたと思う。

## 4時限目：日本の国際協力を知る

ねらい…国際協力・JICA の活動について考える。  
グローバルな視点で自分にできることを考える。

### ◆内容◆

- ① JICA の活動を知り、興味関心を持つ。
  - ・警察官が市民と関わりを持ち、地域密着型の成功例・交番プロジェクトを紹介する。
  - ・日系社会ボランティアや私立学校・日本語学校の日本語教師ボランティアなどを紹介する。
- ② 研修での訪問先の写真を使い、ブラジル社会の現状を説明する。  
(PIPA 閉症児支援事業の取り組み・高齢者施設・オンダリンパ（下水処理事業）・アマゾン水銀汚染モニタリング・ブラジル国立宇宙研究所など)
- ③ 私たち一人一人にできることは何かを考える。
- ④ JICA の冊子を紹介し、国際協力を身近に考える。

### ！ココがポイント

一人ひとりがどのような貢献ができるのかを考えさせる。



トメアス日本語学校



PIPA 自閉症児支援事業

## 生徒の感想

- ▶ ブラジルは日本との関係が深く、資金面、技術面で数多くのものを受けていること、ブラジルにとって日本はとても重要な国だと思った。
- ▶ 日本の技術がとても有効利用されていることが分かった。
- ▶ 交番や下水技術などこの国にもあると思っていた。
- ▶ 日本とブラジルは色々なところにつながりがあるとよく理解できた。
- ▶ 日本の技術がブラジルの生活を助けていることがよくわかった。
- ▶ 日本と比べ環境が悪く、生活も荒れていても、必死に生きている子供たちが多くいることを知った。

## (国際協力)あなたにできることは何ですか？

- ▶ もっと外国に興味を持って、その国のことをまず深く知る。
- ▶ 自分の国だけでなく、もっと他国に目を向けて知っていくべきだと思う。今できることはわからないが、知っていくことから始めようと思った。
- ▶ 世界の様々な問題となっていることを知ることから。
- ▶ ブラジルとの関わりを受け継いでいく。周りの人にこのことを知ってもらえるようにする。
- ▶ もっと外国に興味を持って、その国をまずは深く知る。青年海外協力隊に入って活動してみたいと思った。
- ▶ 大学生になったら海外でボランティア活動をしてみたい。
- ▶ 私は何か特別な技術を持っているわけではないけれど、何か「人のために役に立つことをしたい。貢献できることをしたい」と思う。
- ▶ 日本文化を世界に伝え、大切にしたい。

## 4. 成果

グローバル人材の育成と言われる今日、先人たちの歴史や生き方を学び理解することは他国の歴史や文化を深く知ることもつながり、自分たち日本人・日本文化とは何かを考える良い機会になった。日本から遠いブラジル、日本との関係や、日本人としてできることは何かを深く考えさせる授業を工夫して展開させた。

ブラジルの授業を行っていく中で、始めはどうしてブラジルのことを学習するのか質問する生徒がいた。生徒たちは日本との違いや今までイメージしていたブラジルと異なり、興味・関心を抱き、全体を通してたいへん意欲的に学習に取り組めた。特に、ブラジルと和歌山をつなぐを紹介していく中で、和歌山県出身者も多くいたブラジルへの移民の歴史、当時の暮らしぶりや移住地について驚きの連続であった。その後、日系人の活躍を特集して、彼らがブラジル社会にもたらしたものとして野菜・果物などの農業や、農業方法が環境問題の解決になっていること、様々な問題に対して国際協力している JICA 等の取り組みなどを実際に撮ってきた写真や映像・実物を見せながら、じっくりと生徒たちに考えさせることができた。自分の幸せだけでなく、自分の周りのことから地球規模まで、自分に何ができるのか考えるきっかけになったと信じている。

## 5. 課題

DVD の映像にもあったが、私自身が現地で人が語る内容、いわゆるインタビュー映像や実際の声をもっとあれば、生徒たちにブラジルでの日系人の思いや現在を考えさせることができたと思う。また、在日ブラジル人についての内容も取り上げたかったが、時間がなかった。引き続き、もっと内容を厳選して、さらに授業実践に挑戦していきたい。

### 参考文献

- 丸山康則「ブラジルに流れる「日本人の心の大河」」モラロジー研究所 2001年  
和歌山県国際交流協会制作 DVD「和歌山とブラジル 未来へのかけはし～移民の歴史と今、そしてこれから～2014年  
<http://www.ndl.go.jp/brasil/> 国立国会図書館「ブラジル移民の100年」  
「アリアンサ通信」